

2012年度プロジェクト活動報告

程島次郎「データでみる日本経済」

1 活動の内容

今年度は、福島原発事故の電力会社とガス会社の株価収益率と社債のリスクプレミアムへの影響を計量分析を用いて分析した。主として、関連するデータのデータベースの作成と適切な計量モデルの分析を作成するためのサーベイと論文執筆を行った。

2 プロジェクト関連の活動

(1) 2013年3月1日のプロジェクト報告会での報告書

“The effect of the Fukushima nuclear accident on bond risk premia and stock returns of electric power and gas utilities”の作成と報告

(2) 『国際地域経済研究』への投稿論文「福島原発事故の電力会社とガス会社の株価への影響」を作成した。

角田隆太郎・下野由貴・大神正道「東海地域における製造業企業の国際化とその地域経済への影響」

1 活動の内容

東海地域（とくに愛知県）は製造業の集積している地域であり、愛知県は工業製品出荷額において40年以上日本一を継続しているが、日本の製造業は、現在、

(1) 国際化と海外移転

(2) IT化によるものづくりのモジュール化

という大きな変化に直面している。製造業が直面している変化のなかで、東海地域（愛知県）の製造業が、どのように変化し、それが地域の経済にどのような変化をもたらしている（もたらすのか）について本プロジェクトでは研究を行う。

このプロジェクト研究は、角田、下野、大神の3名の共同研究として進めているが、その進め方は、一つのテーマを3名が分担して進めるのではなく、3名はそれぞれのテーマを持ち、研究を進めているが、そのそれぞれの研究成果のなかで、今回のプロジェクト研究テーマへの貢献部分を編集するというかたちで進めている。

2 プロジェクト関連の活動

角田隆太郎

地域における企業家の輩出を主要な研究テーマとしているが、今回のプロジェクトとの関わりでは、

- (1) 尾張, 西三河, 東三河の製造業の地域特性
- (2) 地域企業の国際化
- (3) 美濃・尾張の繊維産業の衰退 (企業家精神の衰退)

について研究し、ブラザーでアパレル企業への営業活動を担当していた方に、尾張地域での繊維産業の衰退についてヒアリングを行っている。

また教養特色講義において、昨年より、地域企業の国際化について、企業の方を講師として呼びし、お話を聞きしているが、この講義でお世話になった方について、ケースとしてまとめる予定。

下野由貴

研究テーマは、「自動車産業の取引関係の分析」で、今回のプロジェクトとの関連では、自動車産業の系列における取引関係の変化を研究している。

現在行っている調査のなかでプロジェクトに関係しているものとしては、

1 サプライチェーンにおける企業間協働 (大阪市立大学の石井教授との共同部分あり)

(1) トヨタ自動車の海外調達の歴史的発展

トヨタ自動車は、北米では1980年代から、欧州では1990年代後半から現地調達を進めているが、近年、北米を中心に進められている設計や開発の現地化が、部品調達にどのような影響を与えているのかについて、調査・分析を行っている。

(2) トヨタグループのグローバル展開

従来、トヨタ自動車のグローバル展開に伴って、グループのサプライヤーも追随するケースが多く見られた。しかし、近年では、トヨタがグループ以外のサプライヤーから積極的に部品調達したり、グループサプライヤーも、トヨタ以外の自動車メーカーへの営業活動を活発化させたりしている。グローバル展開に対するグループ内のサプライヤー間の対応の違いについて、調査・分析を行っている。

調査企業：アイシン精機、豊田自動織機、アイシンAW、豊田合成、トヨタ紡織など。

大神正道

研究テーマは、「ものづくり」、「中小企業経営」で、今回のプロジェクトとの関連では、ものづくりの変化、中小企業の経営課題を研究。

現在は、パナソニック・エコシステムズによる完成品委託生産確立に至るまでのプロセスを調査中。対象製品は空気清浄機等の白物家電で、大学院生の久保さん(角田ゼミ)の協力を得ての調査。